

リージョナルとしての存在意義

一般財団法人 青森地域社会研究所
常務理事 竹内 紀人



青森銀行創業100周年の記念事業の一環として設立された青森地域社会研究所は、昨年度、おかげさまで創立40周年の大きな節目を迎えました。創立記念日が7月20日であることから、『れぞん青森』の7・8月号では、「これからの青森県」をテーマに各界の皆さまから寄稿を賜り、特集を組ませていただきました。

また、7月には島津製作所の水本徹氏ほかをお招きし、「人間中心設計プロセスで青森県に新しい価値を創造しよう」と題したシンポジウムを開催、さらに、2月には第一生命経済研究所の新家義貴氏をお迎えし、わが国の経済見通しについて講演会を開催しました。いずれも多数のご来場を賜り、盛況裡に終了することができました。

最大の記念事業は、経済解説書の出版でした。制作に向け、県内の大学や産業支援機関に属する研究者11名と当研究所の役職員5名により、「青森県の経済と産業研究会」を結成しました。21あおもり産業総合支援センター理事長・今喜典座長のもと、2017年の秋以降、さまざまな分野の外部講師による研究会を重ね、各々の担当分野を分担執筆し、ついにこの3月、300ページに及ぶ『変化する青森県の経済と産業』が刊行の運びとなりました。本書は、県内の大学、高校、図書館等のほか、当研究所の賛助会員の皆さまにも、

感謝の意を込め、贈呈させていただきます。

一連の記念事業を終え、このように大切な節目を迎えることができたのは、ひとえに皆さまからのご支援、ご協力の賜物であったと改めて感じております。日ごろからのご愛顧に対し、衷心より御礼を申し上げます。

さて、当研究所の初代理事長の渡辺泰助氏は設立趣意書で、地域シンクタンクのあるべき姿について、「中央に対する地方(ローカル)という対立の視点ではなく、リージョナル(地域)としての存在意義を認識すべき」であり、そのためには、「地域に住む人々の英知を結集することが必須であり、かつそのための場が必要である」と説きました。

さらに氏は、『れぞん青森』創刊の辞で、当研究所のあり方について、「各界各層のあらゆる人々の協力による、開かれた研究所であり、問題関心をもつすべての人々の、討論のための〈溜り場〉でありたいと願うのである」と記しました。

新たな年度を迎え、私たち青森地域社会研究所役職員一同は、「リージョナルとしての存在意義」を改めて心に刻み、基盤となる調査研究活動をさらにパワーアップし、皆さまとの連携と交流をさらに深めながら、地域のことを考え続ける開かれた研究所を目指して参ります。今後とも倍旧のご支援、ご協力をお願い申し上げます。